

# 読む能力に培う言語活動の具体化

兵庫教育大学大学院

吉川 芳則

## 一 読む能力の重視

読むことにおける各学年層の「1 目標」の記述は、平成十年版（以下、旧）で「読むことができるようにする」となっていたものが、平成二十年版（以下、新）では「読む能力を身に付けさせる」になった。それを受けて「2 内容」では、例えば文学教材に関する項目は、以下のようになっている。（傍線部が新たに付け加えられた内容。以下同じ。）

### 〔第一学年及び第二学年〕

「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。」

### 〔第三学年及び第四学年〕

「ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。」

### 〔第五学年及び第六学年〕

「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述についての自分の考えをまとめること。」

こうした変更内容からは、人物像を読み深めることを重視していることがうかがえる。低学年では心情よりも行動描写のイメージ化をしっかりと図り、中学年で心情面に着目させるなど、系統、発達段階への配慮が見られる。主に説明的文章に関するものとしては、次の項目がある。

### 〔第三学年及び第四学年〕

「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」

要約、引用は、総合的な学習の時間等における探究活動で必要とされる能力である。とりわけ、引用はこれまで明確に位置づけられ

てこなかっただけに、授業における取り上げ方に工夫が求められる。要約も含め、文章の内容や形式を活用して新たな自己表現を生み出す学習活動として構成されることになる。

ただ、旧の「必要などころは」の文言が「文章の要点」となったこともあわせて、要約、引用、要約といった言葉だけに意識が向いて、機械的な技能学習に終始することのないよう注意したい。また、

### 〔第一学年及び第二学年〕

「エ 文章中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」

は、先の「引用、要約」の項目とつながる新規挿入の項目であるが、こうした書き抜く活動は文学教材でも行うことができる。

## 二 学習活動のあり方の提示

能力面よりも、学習活動のあり方の面がより強調されている項目や文言もある。

### 〔第一学年及び第二学年〕

「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」

PISA型読解力との関連で「文章の内容と自分の経験とを結び付けることを重視し、新たに位置づけられたものである。しかし上

学年との接続でいうと、「発表し合う」という部分に着目したい。「第三学年及び第四学年」では、旧で「読み取った内容について自分の考えをまとめ、…」とあったのが、「文章を読んで考えたことを発表し合い、…」と、「考えをまとめ」ることから「考えたことを発表し合うことへと変わった。高学年では、

〔第五学年及び第六学年〕

「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」

となっており、読書生活へ広げる形で「発表し合う」「活動が位置づいている」「伝え合う力」の育成を企図し、一貫して「発表し合う」活動を推進する形となっている。「発表する」ではなく「発表し合う」とするために、読みの観点を明確にすること、話し合いの論点を整理すること等が指導者には要求される。

主に読書活動に関するものとしては、

〔第一学年及び第二学年〕

「カ 楽しんで知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。」

〔第五学年及び第六学年〕

「カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。」

が新規に設定された。問の「第三学年及び第四学年」については、旧では「ア いろいろ

な読み物に興味をもち、読むこと。」であったのが、「カ 目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。」と変更された。いずれも、目的性と選択性を意識させる内容になっている。また、「第五学年及び第六学年」にある「比べて読むこと」については、下学年段階においても積極的に導入したい。

三 文章ジャンルに即した言語活動の開発を

旧では「3 内容の取扱い」にあった言語活動例が、新では「2 内容」に含まれる形となり、具体化された。特徴の一つとしては、読み（読書）の対象となる文章ジャンルが明記されていることがあげられる。「物語や、科学的なことについて書いた本や文章」「（一・二年）、「物語や詩」「記録や報告の文章、図鑑事典など」（三・四年）、「伝記」「新聞」（五・六年）などが示され、「感想を書く」「編集の仕方や記事の書き方に注意して」等の活動例がセットになっている。多様なジャンルの文章に触れさせるとともに、当該ジャンルに特有の学習活動の開発に力を注ぎたい。

読書活動にひらく言語活動例としては、

〔第一学年及び第二学年〕

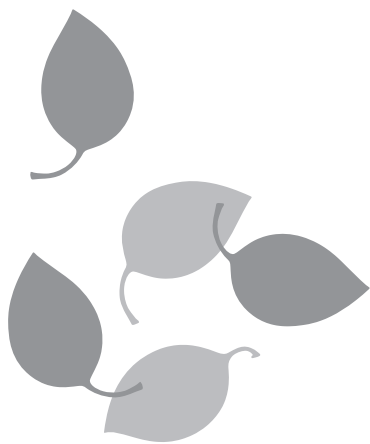
「オ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。」

〔第三学年及び第四学年〕

「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」

〔第五学年及び第六学年〕

「エ 本を読んで推薦の文章を書くこと。」がある。紹介、説明、推薦の文章、など他者へ伝える活動と組み合わせられているが、こだわりすぎて読書意欲そのものを損なわないようにしたい。読み浸ることの楽しさこそが、何より大切である。



きつかわ よしのり 兵庫教育大学大学院教授。専門は説明的文章の学習指導。教職大学院の授業では、意欲ある院生を対象に国語科教育の他に学級経営や生徒指導等を担当。